

茨城県医師連盟だより

No. 43

茨城県医師連盟 〒310-0852 水戸市笠原町 489

2025. October

巻頭言



第27回参議院通常選挙 を振り返って

茨城県医師連盟委員長

松崎 信夫

■選挙結果の概要

本年7月20日に投開票が行われた第27回参議院通常選挙において、日本医師連盟の組織内候補・釜蒔敏氏（自民党比例代表）が17万4,434票を獲得し、初当選を果たしました。厚生労働分野を代表する候補の中でトップ、党内順位でも第8位という成果であり、医療界の代表を国政に送り込むという大きな役割を果たすことができました。まずはご支援くださった会員の皆様に深く感謝申し上げます。

■課題の浮き彫り

しかし、3年前の第26回選挙で自見はなこ議員が得た21万3,369票と比べると、得票は大きく減少しました。全国的に会員1人当たり得票は2.57から2.13へ、本県では4,264票から2,934票へ、1人当たり得票も3.11から2.18へと低下しています。自民党への逆風もありましたが、医師会・医師連盟の組織力が弱まっている事実は否めません。そこで今後の本連盟に活かすべく、8月に茨城県医師会全会員対象にアンケートを行いました。その結果をみても「候補者情報が届かない」「支援しても成果が見えない」との声が多く、従来のやり方だけでは限界があることが浮き彫りとなりました。

■会員からの提案

またアンケートには「SNSやウェブ講演会を積極的に」「政策や成果を日常的に見える化してほしい」「国民の健康を守る団体であることを前面

に出すべき」といった前向きな提案も多く寄せられました。これらの意見は、今後の活動を改善し、新しい世代に響く活動へ進化するための貴重な指針と考えます。

■今後の取り組み

今回の選挙結果とアンケートの分析を踏まえ、本連盟では次の三つの方針を中心に新たな取り組みを行っていきます。

1. 新しい選挙戦略の検討

若手医師や勤務医に響く新しい戦略を構築するため、執行部・会員で構成されるプロジェクトチームを立ち上げます。

2. 広報手段の刷新

FAXや紙媒体だけに依存せず、SNSや動画配信を活用して政策・成果を日常的に共有します。

3. 幅広い視野での候補者支援

今回、緊急に行ったアンケートの回答率は10%台と少なかったことは、単にアンケートの時期や回答期間の問題ではなく、会員の医療政策・医政への関心の低さを如実に示しているとも考えられます。医療政策にとどまらず、社会保障・経済・外交など幅広い分野で発言できる候補者を支援し、会員だけでなく県民・市民に開かれた医師会を示します。

■おわりに

3年後の参議院選挙はすぐにやってきます。医療界の声を国政に確実に届けるためには、組織力の再構築と支持基盤の拡大が不可欠です。開業医・勤務医を問わず、多様な世代が共に歩める体制を整え、医師会が「国民の健康を守る団体」であることを内外に発信し続けてまいります。

今後とも、会員の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

論壇

第27回参議院議員
通常選挙を振り返る

日本医師連盟委員長

松本吉郎

令和7年7月の第27回参議院議員選挙におきまして、日本医師連盟の組織内候補であります釜蒔敏先生に対しご支援を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。おかげさまで、社会保障関係候補者の中でトップ当選を果たすことができました。

また医師として、与党である自民党から、埼玉県の新井俊治先生、岡山県の高橋孝一郎先生、公明党の原田大二郎先生、川村雄大先生も当選を果たされました。さらに、共産党の小池晃先生、参政党の岩本麻奈先生も当選されております。

今回の釜蒔先生をはじめとする医師の当選は、医療・介護・福祉の現場の声を国政に届けるうえで、何よりも心強い成果であります。特に釜蒔先生には、医療現場の声を伝え・届けていただくとともに、今後、医療政策の根幹に関わる議論を、より一層力強く推し進めていただくことを期待しています。

このたびの選挙では、与党である自民・公明両党は、過半数の議席を維持することができませんでした。こうした政治の変動は、私たち医療界にとっても極めて大きなインパクトをもたらします。

そんな中、社会保障費を削るような強い主張が一部の政党からありましたが、健全な日本社会を次の世代につないでいくためにも、「今だけ良かったらよい」というポピュリズムと一線を画していただきたいと考えております。社会保障の重要性を改めて理解していただき、国家や地域社会、家族が崩壊しないよう努力し、永年にわたり積み

上げてきた国民皆保険を堅持していくことが重要だと考えております。

わが国の社会保障については、これまで日本医師会として、「税金による公助」「保険料による共助」「患者の自己負担による自助」の三つのバランスを取りながら進め、自己負担のみを上げないこと、併せて、低所得者等弱者への配慮が重要であると繰り返し主張してまいりました。

賃金上昇につきましては、令和7年度最低賃金はプラス約6%、人事院勧告はプラス3.62%、また「骨太の方針2025」でも示された2025年春季労使交渉の平均賃上げ率は5.26%等となっております。一方で医療は公定価格で運営されており、診療報酬改定は2年に一度だけであり、医療機関等は、とてもこれらに対応できるような状態ではありません。

消費税をはじめ、税収は上振れしています。また、賃上げにより収入は増えており、協会けんぽ等の保険料収入も税収同様の上振れをしています。現行の保険料水準のままだと、現役世代に新たな負担を求めることなく十分対応可能であり、公助・共助の財源は増加しているため、患者のみに大きな負担を求めるのではなく、広く薄く医療費財源を求める視点が必要です。

医政活動においては、情報共有や相互理解、コミュニケーションなど、共に行動することが重要だと考えております。引き続き日本医師連盟は、現場からの意見を汲み上げ、医療政策に反映するよう尽力してまいります。





第27回参議院議員 選挙を振り返る

参議院議員

自 見 はなこ

松崎信夫委員長はじめ茨城県医師連盟の先生方におかれましては、平素より温かいご支援とご理解を賜り深く感謝申し上げます。

本年7月に行われた参議院議員選挙では、昨年10月の衆議院議員選挙と同様に政府与党にとって厳しい結果となりました。しかしながら、全国区においては釜薙さとし先生が医療系トップの成績で初当選を果たし、茨城県選挙区では上月良祐先生が1位当選で三選を果たすことができました。安心の社会保障政策を前に進めるうえでも、釜薙先生、上月先生の存在は大変大きく、頼もしい気持ちです。私の立場からも、深く感謝申し上げます。

選挙前～選挙期間中を通して、社会保障を巡る議論も街頭演説や各種マスコミ出演、さらにはSNS上で様々なございました。消費税廃止や社会保険料の引き下げなど、耳に聞こえの良い政策が目を集めましたが、代替財源についての議論などに乏しく、社会保障の安定的な存続に責任を持った政策とは言えない主張も多く見受けられた印象です。

医療・介護・福祉に係る社会保険料を下げる場合、給付も削減するのか、しないのか、削減しないのであれば利用者の窓口負担が国庫負担を増やすのか、消費税を削減ないし廃止した場合に国庫負担の財源はどうするのか、といった丁寧な議論が不可避であり、選挙向けのパフォーマンスとは相いれない政策分野でもあります。政局に左右されず、しっかりと地に足の着いた議論を前に進めるべく、取り組んでまいり所存です。

茨城県においては、特に人口減少や医療資源の地域偏在が顕著であり、地域医療の維持・確保は先送りできない喫緊の課題です。こうした中で、物価高騰下でも価格転嫁ができない医療・介護・福祉関連の安定的な運営を守る取り組みも急務です。

本年4月18日に自民党本部で開催した「医療・介護・福祉の現場を守る緊急集会」で物価や賃金の上昇に応じて診療報酬等をスライドする仕組みの導入を求めることなどを決議し、同日中に石破茂総理へその旨の要望と賛同する308人の国会議員・選挙区支部長の署名を届けた結果、本年6月に閣議決定された「骨太の方針」にその旨が反映されました。茨城県医師連盟の先生方にも多大なご指導ご支援を頂いた賜物と、深く感謝申し上げます。今後の着実な実施についても引き続き全力を尽くしてまいります。

こうした課題について、釜薙先生、上月先生と心を一つに取り組んでまいりをお約束して、第27回参議院議員選挙の振り返りと今後の展望とさせていただきます。

引続きのご指導ご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。





第27回参議院議員 通常選挙を振り返る

参議院議員

かまやち 敏

松崎信夫委員長先生をはじめ、茨城県医師連盟の皆様には、常に多大なるご支援とご協力を賜っておりますことに、心より感謝申し上げます。

茨城県をはじめ全国の皆様のお力により174,434票という重みのあるご支持を賜り、国政の場に押し上げていただきました。公職選挙法の規定により選挙に関する御礼、ご挨拶の文書を頒布することが、禁じられておりますことを何卒ご理解ください。

私が全国を回るにあたり、一貫して「医療・介護・福祉を守ることは、暮らしを守り、地域を守ることにつながる」と訴えて参りました。

選挙期間中、全国の医療・介護・福祉関係者の皆様と直接お話しさせていただく機会を多くいただきました。その際、皆様から「医療・介護・福祉の制度の持続可能性に強い危機感を抱いている」「現場の声を政治の場に届けて欲しい」といったお声をお聞きしました。

選挙中にいただきました皆様の一つ一つの切実なお声にお答えすることが、今後の私の責任であると痛感し、「現場を知るものが政治に携わらなければ、真に必要な改革は進まない。」と改めて強く感じました。

医療・介護・福祉の収入は公定価格で決められています。しかし、その決められた収入に対して、支出の方が大幅に増えてしまっています。こうした状況により赤字を抱えてしまっている多くの病院や診療所では、老朽化した施設の建て替えも進められない状況です。

医療・介護・福祉が置かれた非常に厳しい経営状況は、日に日に悪化しています。長期的な視野に立って適切な収支差をきちんと設定することが不可欠です。

また、賃上げが進む他の業種への人材流出も進んでしまっており、処遇改善による人材確保は喫緊の課題です。

こうした状況に対し、一刻も早く、改善する手立てを講じなければなりません。医療・介護・福祉の現場の声を国政の場に「伝え・届ける」ことにより、国民にとってなくてはならない医療・介護・福祉を持続可能なものにすることが私の責務です。

医療機関や介護施設が、突然倒れてしまうような事態を招かないよう、医療・介護・福祉に携わる全ての方々の生活が良くなるために、全力で取り組んで参ります。

今回の選挙において皆様から託していただきました一票一票の重みとその責任を胸に刻み、現場感覚を持ち続けながら活動してまいります。

引き続きのご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

医師連盟だより第43号

令和7年10月31日発行

発行人 茨城県医師連盟委員長 松崎 信夫

編集人 茨城県医師連盟

発行所 茨城県医師連盟

〒310-0852 水戸市笠原町489

TEL 029 (241) 8446 FAX 029 (243) 5071

印刷所 (株) 高野高速印刷

〒310-0035 水戸市東原2-8-1

TEL 029 (231) 0989 FAX 029 (221) 4176